

国語 第4学年 あなたなら、どう言う 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、意見の違う相手へ伝える言い方を、目的と理由を確認して考える。丁寧さだけでなく、相手の事情を聞くことも扱う。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「あなたなら、どう言う」 教材名「あなたなら、どう言う」

2 単元の目標

考えと理由の関係を理解し、相手に伝わる言葉を使うことができる。互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①考えと理由の関係を理解し、相手に伝わる言葉を使っている。〔知識及び技能〕(2)ア)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめている。(A(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

意見の違う相手へ伝える言い方を、目的と理由を確認して考える。丁寧さだけでなく、相手の事情を聞くことも扱う。学習指導要領のA(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

実在の児童のけんかを再現せず、教師の架空場面で目的・言い分を分ける。本人の言い方を責めず、相手の反応を想像して別案を比べる。おおむね満足できる状況は、互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

第1次 第1時：○架空場面の目的と立場を確かめる。言い方の案と理由を出す。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○相手の反応を考えて比較する。 評価：思①（発言・学習記録）

第3次 第3時：○共通の目的に合う表現をまとめる。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（2／3）

(1) 本時の目標

互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめることができる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「同じお願いでも、相手の事情を聞いてからならどう言えますか」

【めあて】意見の違う相手へ伝える言い方を、目的と理由を確認して考える。

予想される児童の反応：・命令だけでは理由が伝わらない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「同じお願いでも、相手の事情を聞いてからならどう言えますか」

相手の反応を考えて比較する。

場面の目的、双方の言い分、言い方の案、選んだ理由。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・命令だけでは理由が伝わらない。

・相手にも理由があった。

・共通の目的が分かると別の言い方を考えられる。

指導上の留意点：実在の児童のけんかを再現せず、教師の架空場面で目的・言い分を分ける。本人の言い方を責めず、相手の反応を想像して別案を比べる。

想定するつまずき：正しい言い方を一つ暗記する、強い言い方で相手を従わせればよいと考える。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 互いの意見の共通点や違いを比べ、目的に合う伝え方について考えをまとめている。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・共通の目的が分かると別の言い方を考えられる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「同じお願いでも、相手の事情を聞いてからならどう言えますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時に確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

